

# はたらきかた 改革通信 2023

No. 4

長野県教育委員会義務教育課 発行

2023.7.28

## 事務室から始まる学校の働き方改革!②～県外の学校より～

### 子どもが使う学校予算! (横浜市 日枝小学校)

#### <実現までの経緯>

学級単位で総合的な学習を行う日枝小学校では、子どもたちの思いや願いに沿った活動を展開しています。活動の主体である子どもたちに、予算の範囲内で必要物品の発注等を行う権限を渡し、リアルな学びを体感してほしいと願った事務職員のDさん。Dさん自ら教室に行き、学校予算を使うためのルール(予算額、発注の際に学校事務職員に伝えること、発注の期限やタイミングなど)を、子どもたちに直接説明しました。すると、学級の中の、予算執行に長けた子どもたちが活躍し、見通しを持って予算を使うようになってきました。

#### <活動を通して得られる効果>

子ども

活動を具現化するために、いつ、何を注文するかなど計画性をもって活動をする重要性を学ぶことができる。また、金銭感覚を実践ベースで学ぶことができる。

担任

実生活につながる授業を展開できる。より、子どもたち主体の学びにつなぐことができる。また、子どもとともに、予算執行の流れについて学ぶことができる。

事務室

子どもと教職員の思いや願いに沿って予算運用をすることができる。また、予算執行の効果を、子ども達の実態をもとに教職員とともに語ることができる。

#### 授業時に説明する予算資料兼ポスター

なかま活動費  
〇年〇組  
¥14000  
~10/31(火)  
発注は 5のつく日♪

届くまで 3~4週間  
見直しをもって 計画的に発注 しましょう

みんなで相談して から注文 しましょう  
みんなのお金 みんなで使い方を 決めましょう

何を、何個、いつまでに? を教えてね  
カタログなども 使って正しく教え てください

注文票は事務室にあります  
必要のことを書いて、担任の先生の許可をもらって提出してね

もっと必要なときは11月に企画書をだしましょう  
学校の残ったお金の使い道を決める予算委員会で話し合います

#### <授業時に説明する予算資料兼ポスター>

#### 事務職員の声:

金銭教育を実践ベースで学ぶことで、予算運用を得意とする子どもの活躍を促すことができました。これまで子どもたちは、教員を通して物品発注をしていましたが、直接事務職員とやりとりをすることで、教員の負担が減りました。子どもも教職員の予算執行のルールを知ること、互いの立場を尊重した無理のない活動ができるようになり、事務職員にとっての負担軽減にもつながりました。

# 充実したウェルビーイングなワークライフを目指して!

## <実現までの経緯>

## (栃木県 那須中央中学校)



教職員が肉体的にも精神的にも満たされた幸福・健康な状態で働けて、やりがいと業務のバランスを保って勤務できる環境づくりをすることが、質の高い授業の実現や愛情・敬愛・信頼に満ちた生徒指導等の充実にとって大切と事務職員のEさんは考え、先生方と連携をして以下のような工夫を行い、業務改善を進めています。

### 【時間面の工夫】

- 道徳指導のローテーション制の導入・・・事務職員が業務改善推進者となり、道徳教育推進教師と話し合い、道徳の授業担当者をローテーションで行うことを提案。ローテーションにすることで、教員に空き時間ができ、自身の教科の授業準備やお互いの道徳の授業参観に充てることができた。
- 部活動指導のローテーション制の導入・・・放課後の部活動指導にあたる教員をローテーション制にすることで、指導をしない日は、事務処理や授業準備などができる。また、土日の部活動指導手当の実績簿を、周知している指導体制が守られているか、毎月校長と事務職員とで確認している。

### 【環境面の工夫】

- 職員室の机やミーティングテーブル等のレイアウトを変更して、職員間・学年間のコミュニケーションや協働がしやすいようにしたり、ホワイトボードを設置して情報共有スペースや職員研修の際のスクリーン等として有効活用したりしている。
- 職員会議後の5分間を職員室整理整頓タイムとして、事務職員から呼びかけをしている。その結果机上の整頓がかなり浸透してきている。



### 【教職員一人一人の資質向上】

- 那須中央小では、教職員の資質向上と同僚性を高めるために教職員が持ち回りで行った校内研修を実施している。事務職員として、Google フォームでのアンケート作成とQRコードの作り方などについて研修を実施した。

### 事務職員の声:

それぞれの取組を通して成果が表れ始めています。今後は、校務分掌表を見直して、業務の整備と組織のスリム化を図るとともに、職員一人当たりの業務負担の軽減と均等化も図りたいと考えています。

検討委員の皆様からは、「上田二中の実践が興味深かった。二中の事務の先生に実際に会って話を聞くことが、よい研修につながるのではないか」「興味深い事例が多かった。校内研修などで、実際に『楽しい』と実感できるような研修をつくっていただければよいのでは」などのご意見をいただきました。

一方で、「共有されたことがより多くの人々の心に火をつけて行動に移す手だてはないだろうか」「先進的な取組をどのように自校に取り入れていってもらえるか。その工夫を考えたい」などのご意見も聞かれました。今回発表をいただいた学校でも、目標を実現するまでには、幾度となく壁に阻まれたこともあったようですが、その都度アイデアを出し合ったり、周囲の協力を得たりしながら乗り越えてきたことがわかりました。

今回の発表をお聞きして、近隣の学校で日頃の課題を語り合い、無理のない範囲で自校の実態に合ったものを取り入れていくことが、業務改善につながっていくのだと感じました。

次回の検討会議は以下のとおり「はたらきかた改革通信 No.5」でご報告します。

・第3回働き方改革検討会議

8月24日(木) 9:30~11:00

テーマ 「教職員の多様な働き方~フレックスタイムの導入等について~」